

## 見直しの方向性（案）

## 課題

- 現行基準では、「外力あり※」の場合、第1次調査（浸水深）による判定が可能である一方、「外力なし」の場合、床上浸水の住家は多くの調査項目がある第2次調査（内観調査）が必要。

※ 津波、越流、堤防決壊等水流や泥流、瓦礫等の衝突等の外力が作用することによる一定以上の損傷が発生している場合

- 近年は内水氾濫が多く発生しており、「外力なし」被害の第2次調査を行うことにより、罹災証明書の交付に時間を要する場合がある。

外力ありの場合の第1次調査	外力なしの場合の第1次調査														
 <p>「外力あり」イメージ</p>	 <p>「外力なし」イメージ</p>														
<p>(判定基準) ※戸建て1・2階のみ</p> <table border="1"> <tr> <td>床上 1.8m以上</td> <td>全壊</td> </tr> <tr> <td>床上 1 m以上 1.8m未満</td> <td>大規模半壊</td> </tr> <tr> <td>床上 0.5m以上 1m未満</td> <td>中規模半壊</td> </tr> <tr> <td>床上 0.5m未満</td> <td>半壊</td> </tr> <tr> <td>床下浸水</td> <td>一部損壊</td> </tr> </table>	床上 1.8m以上	全壊	床上 1 m以上 1.8m未満	大規模半壊	床上 0.5m以上 1m未満	中規模半壊	床上 0.5m未満	半壊	床下浸水	一部損壊	<p>(判定基準) ※戸建て1・2階のみ</p> <table border="1"> <tr> <td>床上浸水</td> <td>なし <u>(第2次調査へ)</u></td> </tr> <tr> <td>床下浸水</td> <td>一部損壊</td> </tr> </table>	床上浸水	なし <u>(第2次調査へ)</u>	床下浸水	一部損壊
床上 1.8m以上	全壊														
床上 1 m以上 1.8m未満	大規模半壊														
床上 0.5m以上 1m未満	中規模半壊														
床上 0.5m未満	半壊														
床下浸水	一部損壊														
床上浸水	なし <u>(第2次調査へ)</u>														
床下浸水	一部損壊														
<p style="text-align: center;">↓</p> <p>床上浸水の場合でも、第1次調査で罹災証明書の交付が可能。</p>	<p style="text-align: center;">↓</p> <p>床上浸水の場合、<u>第1次調査のみでは罹災証明書の交付ができない。</u></p>														

## 検討の論点

- 「外力なし」の床上浸水についても、浸水深による判定ができないか。

## 具体的な見直しの内容

- モデル的な住家を想定した被害の程度に関するシミュレーションを実施し、直近の水害による第2次調査を実施した市（秋田市、静岡市及び延岡市）へのヒアリング及び同市の調査結果を踏まえ、浸水深による判定基準を作成する。

（「外力なし」の場合の浸水深判定基準（案））

被害の程度	判定基準	
	現行	見直し（案）
全壊 （50%以上）	なし	なし
大規模半壊 （40%以上 50%未満）	なし	なし
中規模半壊 （30%以上 40%未満）	なし	<u>床上 1.0m以上</u> <u>床上 1.8m未満</u>
半壊 （20%以上 30%未満）	なし	<u>床上 0.1m以上</u> <u>床上 1.0m未満</u>
準半壊 （10%以上 20%未満）	なし	<u>床上 0.1m未満</u>
準半壊に至らない （一部損壊） （10%未満）	床下浸水	床下浸水

※ 浸水深が 1.8m 以上の場合の判定基準については、事例が少なく、シミュレーションの妥当性の検証が難しいため、作成しない。